

志手原小学校保護者代表、平岡委員提供資料

平岡委員より事務局に、当該資料の配布について、
ご依頼がありましたので、各委員に配布いたします。

中学校再編に関する提案

上野台中・八景中再編地域協議会 上野台部会第3回資料

2020年11月11日

志手原小 中学再編検討委員会

- 前回の八景校区の協議会部会において、「上野台地区は、この再編に前向きになっているのか」との八景地区の保護者代表の質問に事務局は「概ね賛成いただいております、各論の話になっている」と発言されました。
- 志手原小保護者代表からは、「少人数制学級導入時の懸念」や高平小保護者代表から「他案の評価を示してもらいたい」という意見が出ており、「概ね賛成」という状態ではないと感じている。（そもそも上野台校区の部会で、賛成という合意形成は取られていないまま、各論の話に移行してしまっている。）
- 八景校区は前向きに再編について検討していただいている。上野台校区としても納得した形で再編協議を進めていきたい。
- 志手原小保護者代表のスタンスは、「再編する必要があるが、八景との統合には疑問が残る」というスタンスを明確に宣言します。疑問は解消していただいて、納得して協議を進められるようにしていきたいと考えます。
- 再編を検討するに当たって、今回3点の提案をしたい。
 1. 再編案それぞれの評価について
 2. その他再編案について①（藍・長坂・上野台＋松が丘統合案）
 3. その他再編案について②（上野台中を八景中学校の分校とする案）
- 上記提案を持って、本協議会で議論いただき、事務局には各々の案について検討をお願いしたい。

志手原小保護者代表が抱いている疑問

2

疑問として4点。

1. 再編案5案の評価について

事務局で示されている、5案の評価が曖昧な点が多いので同じような基準で示してもらいたい。

2. 八景・上野台統合の生徒数割合による不安

9：1の割合での統合に不安を感じている保護者は多い。

※志手原校園PTAでのアンケートでは「松が丘・三輪を上野台中へ」という意見が多い。

3. 藍・長坂中学校が統合しても適正規模に満たない状態での統合

再編案の中に、「上野台・藍・長坂統合案」が示されているが、R14年度には適正規模に満たないと提示してあるが、1次計画では「藍・長坂統合」を考えている。

⇒このままでは「藍・長坂は適正規模に満たず、満足な教育を受けられない」という事になる。

⇒「三田市全体の教育環境を平等にする」という主旨からずれていないか？

4. 国で進めている「少人数制学級」への対応

政府が開いている「教育再生実行会議」において、少人数制学級（30人）の議論がなされており、コロナの影響も相まり、昭和55年から続く40人制学級の見直しが本格化している。

⇒今、適正規模マックスの中学校を新設するのは得策か？

上記4点の疑問を解決するため、今回3つの提案を行います。

提案 1. 再編案それぞれの評価について

3

- これまでの協議会での説明について、再三「上野台・八景統合案以外の案についてどのように評価し、上野台・八景の統合が一番良い案となった経緯を示してほしい」との要望があるにも関わらず、説明が不足している。
- 統一した評価指標を検討し、各々の案のメリット・デメリットについて丁寧に説明していただくことを提案する。

○評価指標の案

以下のような指標を用いて、各案を平等に評価。（具体的な数字は不要）
「○」「×」「△」や、「優」「良」「可」「不可」などで評価。

①金額の適正度
金額の規模感

②通学の快適度
通学方法や通学時間

③教育の充実度
教育を実施するに当たって不自由・不平等がないか？（他中学校との比較）

④その他
案それぞれの特筆すべき点

- 上記指標以外にあれば、協議会メンバーで提案いただきたい。
- 決めた指標に沿って、再編案の評価を事務局には求めたい。

○現再編案への不安要素

・八景中：上野台中＝9：1の関係性

⇒大きな集団に、小さな集団が入っていくことの不安は、保護者の意見として多く寄せられている。

・藍・長坂の再編は、両校が統合しても適正規模に満たさない

⇒「適正規模に満たなければ、満足な教育は受けられない」と言われている。

⇒藍・長坂は満足な教育が受けられないという事になる。

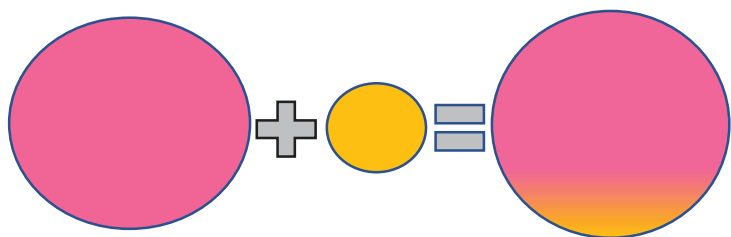
・少人数学級実現時の対応について

⇒文部科学相「できるところからやっていくべき」と会議後の会見で発言

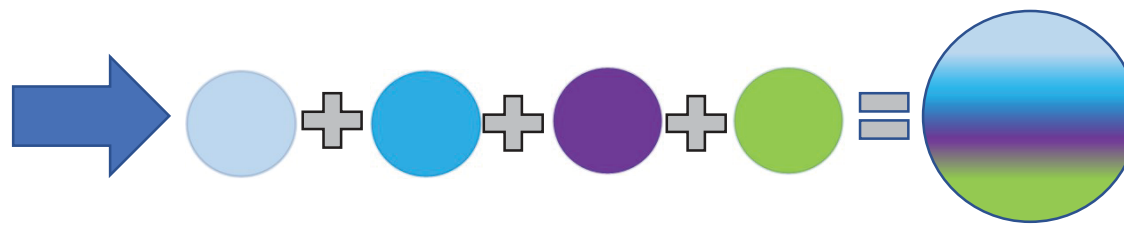
⇒八景との統合案では30人学級が実現した場合、適正規模を上回る可能性

- ・上記より、その他再編案（4）の藍・長坂・上野台統合に松が丘を含める案を提案する。

大きい集団に小さい集団を入れる不安



同じような規模の集団での統合⇒不安を払拭



○生徒数の視点での検討 八景中と上野台中の統合の場合

- ・第2回地域協議会で示された、「資料3 上野台、八景中学校区生徒推計」より、統合後の生徒数推移において、学級編成が30人となった場合の学級数を比較。
(生徒数が一番多くなるR9年度、一番少なくなるR24年度において算出)

学年	R9			R24		
	生徒数	学級数		生徒数	学級数	
		40人	30人		40人	30人
1年	241	7	9	192	5	7
2年	207	6	7	196	5	7
3年	206	6	7	199	5	7
合計	654	19	23	586	15	21

- ・ 30人学級が実現した場合、R24年度においても21学級となり、適正規模を超える学級数となる。

⇒今後の政府の動向も意識したある程度余裕を持った学級編成が可能な規模での再編を検討する必要があるのではないか？

○生徒数の視点での検討 藍・長坂・上野台+松が丘統合

- 「資料4 過去に検討した2校統合以外の学校再編案」より、第4案「上野台中・藍中・長坂中を統合して、新三田付近に新設校を設置する」案に、松が丘小学校の生徒数を加える。
- 藍・長坂・上野台については、上記資料中で、生徒数が一番少なくなるR14年度にて比較
- 松が丘小の生徒数は、「三田市立学校のあり方に関する基本方針 資料編 6. 中学校区別児童生徒数の今後の推移について（推計）」において、平成36年度（令和6年度）まで、1学年当たり14名～27名で推移しているため、仮に最低数である14名を、令和14年度の藍・長坂・上野台統合の生徒数に加える

学年	R14		
	生徒数	学級数	
		40人	30人
1年	84	3	3
2年	89	3	3
3年	102	3	4
合計	275	9	10

- 40人学級であっても、R14年度時点で適正規模を確保できる。
- 今後の学級編成の見直しにおいても弾力的に対応可能。

○まとめ

八景・上野台の統合での不安要素

- ・ 八景中：上野台中＝9：1の関係性
- ・ 藍・長坂の再編は、両校が統合しても適正規模に満たさない
- ・ 少人数学級実現時の対応について

上記3点の不安払拭のため、再編案（4）藍・長坂・上野台に松が丘小を加える案を提示した。

これにより、藍・長坂・上野台の統合ではR14年度に適正規模に満たないという、案取り下げの理由が一つ消える。

この再編案のメリット・デメリット

メリット

- ① 藍・長坂の小規模問題も合わせて解消でき、三田市に適正規模に満たない中学校がなくなる。
- ② 同規模の中学校を統合することにより、スムーズに学校生活が移行できる。
- ③ これから進むであろう少人数学級への対応について、比較的余裕を持って弾力的に対応できる。

デメリット

- ① 八景中学校の立地問題が解決しない。（八景中を移転するとなると、新設校×2となる。）
⇒ 今回の再編の目的は、生徒数の減少に伴う地域による教育格差の是正がメインテーマである。優先すべきは藍・長坂・上野台の小規模にも満たない学校の再編ではないか？
- ② 校区が広範囲になり、通学におけるコスト等の問題
⇒ 「三田市都市交通網形成計画」と合わせて、通学しやすい交通網の形成に三田市を挙げて取り組んでもらいたい。

<提案の背景>

○再編やむなしという意見でまとまりつつあるが、一方で地域に中学校がなくなることについて、地区の将来について不安に思う人もいる。

○「上野台中学校のいいところ」として、生徒会活動が盛んで、生徒会を中心に学校のいろいろなことに率先して取り組んでいるとの話

⇒「現行の上野台中学校だからできること」ではないか？

⇒上野台中学校を今のまま残す方法はないか？

○現状の問題点は、小規模過ぎるため、①教職員の割当が少ない。②部活動の選択肢がない。という事が問題として挙げられている。

⇒八景中学校と協力体制を取りながら、上野台中学校を存続させれないか？

- ・ 上記より、上野台中学校を八景中学校の分校にする案を提案する。

<再編案>

- ・ 現上野台中には、上野台校区生徒に松が丘校区生徒を加えて、40人程度のクラスを確保。
- ・ 現八景中は移転を行う。（新設校の費用を充てる。）

○上野台中学校が再編しなければならない理由

- ①教職員の定数が教科担任制を守れるほどの定数を満たしていない
- ②部活動の選択肢が少ない

○分校化によるメリット・デメリット

メリット

- ・教職員を八景中学校とシェアし、教科担任制が継続できる。
(上野台中の教職員も、スキルアップの研修に行きやすくなる)
- ・部活動は八景と合同で実施できるため、上野台中生徒の部活動の選択肢が広がる。
- ・新設校を建てない代わりに、現八景中学校を移転できる費用が捻出できる。
⇒八景の立地問題が解消できる。
- ・上野台校区は現状通り、八景校区は学校建替により、通学不安が解消される。
- ・同じ中学校とすることで交流の機会を取りやすく、多様な価値観に触れる機会が、現状より増加する。

デメリット

- ・学校行事（体育祭や文化祭など）の練習や運営に不安。（別々で実施する等の検討）
- ・教職員が八景・上野台を行き来することが発生する。（最小化できる時間割の構築）
- ・部活動の移動費用が必要。（現状よりも補助増。保護者等の協力が必要か？）
⇒子供たちのデメリットよりも、親・行政の都合でのデメリットが多い。

○この度、八景・上野台再編協議会において、行政案以外の案が取り下げられた理由や、なぜ行政案なのかという疑問が解消されないまま進んでいる現状から、以下3点提案させていただいた。

1. 再編案それぞれの評価について
2. その他再編案について①（藍・長坂・上野台＋松が丘統合案）
3. その他再編案について②（上野台中を八景中学校の分校とする案）

どの提案も、行政案に反対したいという思いではなく、教育委員会がおっしゃられている「子供のことを中心に据えた」提案だと考えている。

行政案ありきではなく、この案も含めて、「子供のことを中心に据えた」協議が真摯に進むことを切に願います。

今後、他の代表との認識差等が発生し、再編協議が遅延することが想定されるため、個別に教育委員会と話し合える機会を求めたい。